

リンゴに発生するシャクトリムシ類の生態と防除

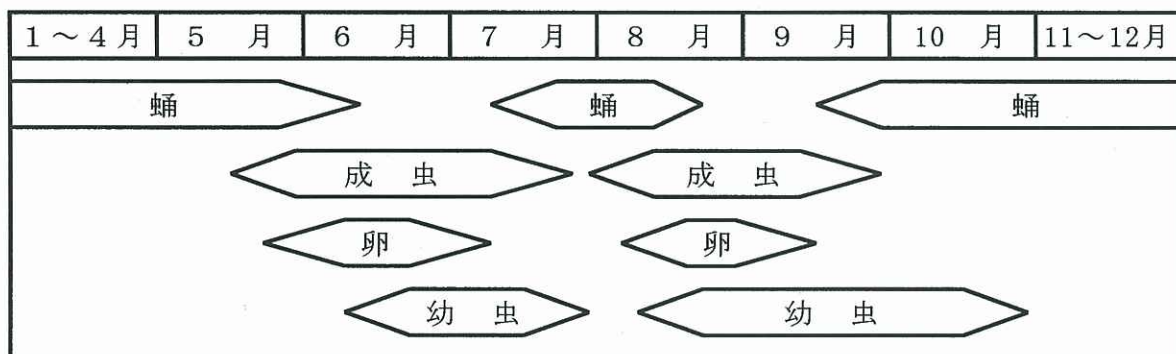
研究のねらい

リンゴ園ではヨモギエダシャクとセブトエダシャクが多発することがある。そこで両種の区別点と発生生態、薬剤感受性を明らかにし、防除の参考に供する。

研究の成果

第1世代幼虫は6月下旬～7月、第2世代幼虫は8月下旬～9月（10月）に発生する（第1図）。シャクトリムシ類に登録のある有効薬剤はないので、発生が多い園地では種類を確認して（第2図）、有効薬剤を選択し、他の害虫との同時防除を図る（第1表）。特に第2世代幼虫の防除に当たっては、適正使用基準（年間使用回数、収穫前日数）に注意する。

主要な試験データ

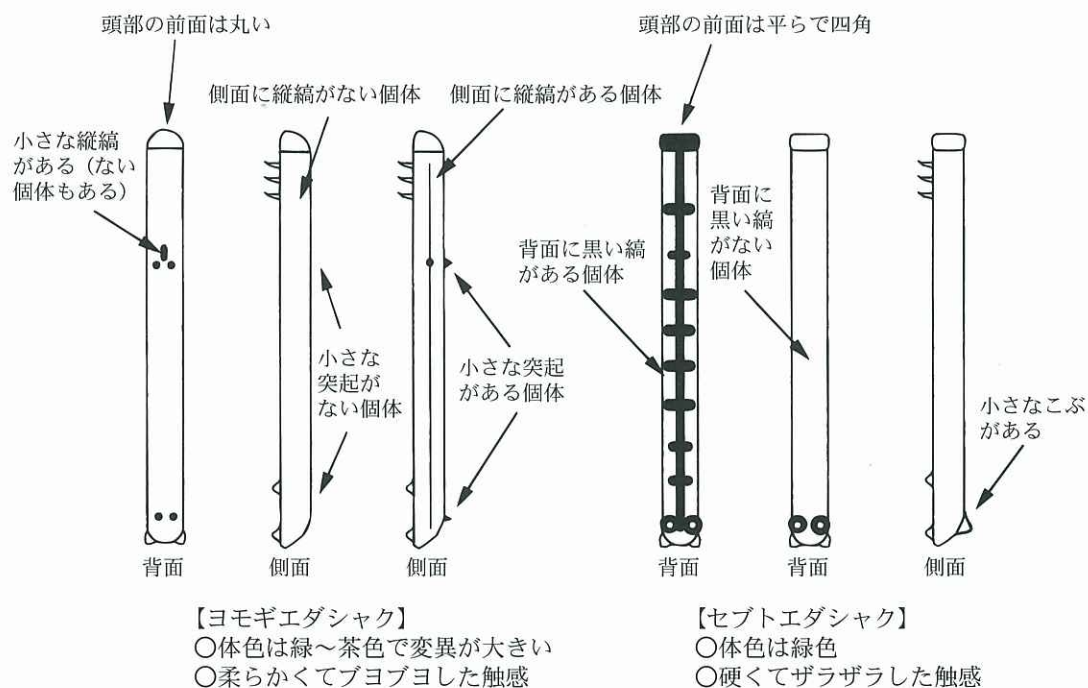


第1図 ヨモギエダシャク及びセブトエダシャクの周年経過

第1表 シャクトリムシ類に対する薬剤の有効性

薬 剤 名	使用倍数	ヨモギエダシャク		セブトエダシャク
		1990年	1999年	1990年
スミチオン水和剤	800倍	○	×	×
サリチオン水和剤	1,000倍	○		○
ダイアジノン水和剤	1,000倍	×	×	×
エルサン水和剤	1,000倍	○800倍	○	○800倍
ダーズバン水和剤	1,000倍	×	×	○
スプラサイド水和剤	1,500倍	○	×	×
サイアノックス水和剤	1,000倍	○	×	×
ミクロデナポン水和剤	1,200倍	○	×	×
モスピラン水溶剤	4,000倍		×	—
スカウトフロアブル	2,000倍		×	—
スカウト以外のピレスロイド剤	—	○	○	—

注) ○：効果あり、×：効果なし、—：未検討



第2図 ヨモギエダシャクとセプトエダシャク幼虫の区別点

発表資料

1. 病虫部 (1980). セプトエダシャクの生態と発生観察法. 昭和56年度指導奨励参考事項: 152-154.
2. 病虫部 (1991). りんごに寄生するシャクトリムシ類の識別及び防除方法. 平成3年度指導奨励事項・指導参考資料: 34-35.
3. 病虫肥料部 (2000). りんごに発生するヨモギエダシャク幼虫の薬剤感受性. 平成12年度指導奨励事項・指導参考資料等: 100-101.
4. 櫛田俊明 (2000). 青森県におけるヨモギエダシャクの薬剤感受性. 平成11年度寒冷地果樹試験成績概要集(虫害): 75-76.
5. 櫛田俊明 (2000). 青森県りんご試験場 第20回りんご試験成果・情報発表会要旨: 7-8.